

あいち農産物生産流通レポート

2026年4月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・ 愛知のふるさと食品コンテストの取組について (食育消費流通課)	1
◎ 地域トピックス	
・ 愛知豊橋次世代施設園芸推進コンソーシアム主催の研修会が開催されました (東三河農林水産事務所)	3
◎ 東京レポート	
・ 加工・業務用野菜に関する事業成果発表会が開催されました (東京事務所)	4
◎ 東京都中央卸売市場における4月の主要な愛知産青果物の動向 (東京事務所)	5
◎ 花 き	
・ 切花・鉢花の4月の見通し(県内市場) (食育消費流通課)	8

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

愛知のふるさと食品コンテストの取組について

食育消費流通課

本県では、県産農林水産物を活用した加工食品を新たに掘り起こし、農林水産物の利用拡大と生産振興に資することを目的として、1998年から「愛知のふるさと食品コンテスト」を毎年開催しております。

1 2025 年度の取組概要

2025 年度は 20 商品の応募があり、書類審査および食味審査を経て、以下の商品が受賞しました。

- ・最優秀賞 : 「ごはんに合う蜂蜜のおみそ」(有限会社愛光園 Happiness-bee)
- ・優秀賞 : 「名古屋金のえび天」(株式会社坂角総本舗)
「とよかわ大葉フランクフルト」(株式会社ヤマグチファーム)

最優秀賞に対して、愛知県庁において開催した表彰式で、農業水産局長から表彰状を授与しました。また、本県代表として同受賞商品を県から「優良ふるさと食品中央コンクール」(主催:一般財団法人食品産業センター)に推薦した結果、農林水産省大臣官房長賞(国産畜水産品利用部門)を受賞しました。

これらの取組については、「いいともあいち運動 SNS」を活用して情報発信を行い、PRを実施しています。また、2025 年度の出品商品カタログは県公式ウェブサイトにて掲載しています。

(<https://www.pref.aichi.jp/book/list/book273.html>)

2 最優秀賞(知事賞)の概要



商品名	ごはんに合う蜂蜜のおみそ	
製造者	有限会社愛光園 Happiness-bee (小牧市) 	
希望小売価格(税込)	税込 896 円 (200g)	
販売店舗	自社店舗、無印良品、ふるさと納税、 自社オンラインショップ等	
商品の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・非加熱はちみつをたっぷり使った甘味噌調味料です。 ・豆のつぶつぶ感がお肉のような歯ごたえで、こってり甘く、豆味噌の旨味のごはんと相性抜群です。 ・ごはんだけでなく、お豆腐や焼きなす、とんかつなど幅広い料理に使える万能調味料で、食卓の人気者になること間違いなしです。 	

3 優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）の概要



商品名	名古屋金のえび天	
製造者	株式会社 坂角総本舗（東海市） 	
希望小売価格（税込）	税込 950 円（12 枚入り）	
販売店舗	ジェイアール名古屋タカシマヤ、自社オンラインショップ	
商品の概要・特徴	<p>・名古屋が誇る愛知県産天然海老の旨み・甘みを、愛知県産の小麦を使用した小麦粉のやさしい風味でつつむ、鮮度と風味が活かしたかき揚げ風の海老せんべいです。</p>	



商品名	とよかわ大葉フランクフルト	
製造者	株式会社 ヤマグチファーム（豊川市） 	
希望小売価格（税込）	税込 1,250 円（300g/3本）	
販売店舗	自社店舗	
商品の概要・特徴	<p>・豊川産の豚肉「とよかわみー豚（とん）」と豊川市の名産品のひとつである「とよかわ大葉」を使った1本約100gのボリュームたっぷりのフランクフルトです。</p> <p>・旨味の詰まった肉汁と大葉の爽やかさの融合が特徴です。</p>	

今後も、本コンテストを通じて県産農林水産物を活用した加工食品の魅力発信や販路拡大を支援し、県産農林水産物の需要拡大と生産振興につなげていきます。

愛知豊橋次世代施設園芸推進コンソーシアム主催の研修会が開催されました

東三河農林水産事務所

国の次世代施設園芸導入加速化支援事業により、全国 10 拠点のモデル施設が整備されました。そのひとつが、愛知豊橋次世代施設園芸推進コンソーシアム（※1）による愛知県拠点で、「イノチオファーム豊橋」として、イノチオみらい株式会社により運営されています。

同ファームの取組を地域に普及させるため、同コンソーシアムの主催により、2026 年 3 月 3 日（火）に愛知県内の農業者及び農業指導者向けの研修会が開催されました。

※1：地域の施設園芸がさらに進化するよう豊橋市、イノチオみらい株式会社、イノチオアグリ株式会社、JA 豊橋、豊橋技術科学大学、愛知県（園芸農産課、東三河農林水産事務所（農政課、農業改良普及課）等）、等の構成員が連携して運営している組織

1 講習会

(1) イノチオファーム豊橋におけるミニトマトの高温対策

イノチオみらい株式会社小坂生産課長より、夏場の樹勢維持による増収と品質向上の実績について紹介がありました。

主な高温対策の取組として、①温湿度管理、②LAI（※2）と灌水の管理、③BS 資材（※3）の活用の紹介があり、①～③の取組の結果、7月の品質に対するクレームは従来の5分の1に減少し、年間収量は前年比110%に増加するなど、高温対策の効果が確認されたとの報告がありました。

(2) 高温対策におすすめの資材と栽培管理の紹介

イノチオアグリ株式会社白井氏より、高温時に生育を維持するために今回使用したBS資材と定植初期の生育に合わせた灌水管理について紹介がありました。

灌水管理では、培地の下に重量センサを設置し、水分率をモニタリングすることで生育状況に応じた管理が可能であると説明がありました。

※2：葉面積指数：地面1㎡当たりの葉の広さを表す指標

※3：バイオスティミュラント資材：耐暑性などを高めるために植物の働きを助ける資材

2 圃場視察

選果場では、遮熱シートの設置状況やロス率を減らすための取組について紹介がありました。ミニトマト栽培圃場では、ヒートポンプ設置圃場を見学し、実際の生育状況や効率的な作業管理について確認できました。



圃場視察の様子

3 参加者の反応・今後の期待

参加者からは草勢を回復させる方法や選果場の遮熱シートに関して質問があるなど、高温対策への関心の高さが伺えました。

今後、高温対策を含めイノチオファーム豊橋の成果及びノウハウが次世代園芸モデルとして産地全体に普及していくことを期待しています。

加工・業務用野菜に関する事業成果発表会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2026年2月27日(金)、東京都江戸川区のタワーホール船堀において「令和7年度国産野菜供給体制づくり支援事業」の成果発表会(主催:野菜流通カット協議会)が開催されました。

1 事業概要

本事業は、国産野菜、特に加工・業務用野菜を周年安定供給するために必要な知識や生産技術などの普及・啓発を行い、園芸産地の育成を促進し、実需者ニーズに対応した園芸作物の生産拡大を実現することを目的に実施されています。

2 成果発表会の主な内容

成果発表会では、本事業の一環として行われた「生産者と実需者によるマッチングイベント」の成果報告や、農林水産省を始めとする4名から、加工・業務用野菜に関する最新の話題が提供されました。

(1) 生産者と実需者によるマッチングイベントの成果報告

【報告者】マッチングイベント検討委員会委員 横浜丸中ホールディングス(株) 岡田社長

生産者と実需者のマッチングイベント(商談会)が2025年9月19日に東京都墨田区(生産者22社、実需者19社)、10月29日に熊本県八代市(生産者20社、実需者19社)において開催され、それらの結果について報告がありました。

当イベントでは、マッチングに加え、「加工・業務用野菜標準基本契約取引セミナー」と「生産者と実需者による意見交換会(グループ討議)」が実施されました。グループ討議では、加工・業務用野菜の周年安定供給を図るための意見として、収量改善、高温対策、貯蔵による端境期の不足時対応などがありました。

イベント後のアンケートでは、今回のマッチングにより商談・契約に至ったと回答した割合が、生産者では57.1%、実需者では75.9%となり、一定の成果があり今後も実施していく予定です。



マッチングのイメージ
(会議資料より引用)

(2) 話題提供

ア 加工・業務用野菜のサプライチェーン強靱化に向けて

【報告者】農林水産省園芸流通加工対策室 高田室長

加工・業務用野菜は需要量の約6割を占めており、その約3割が輸入であるため、「国産野菜シェア奪還プロジェクト」の立ち上げと協議会の設立、「野菜を食べようプロジェクト」などを実施していることが報告されました。

イ 冷凍ブロッコリー国産シェア奪還に向けた研究事業の取組

【報告者】農研機構野菜花き研究部門 高橋主任研究員

生産技術の高度化(ブロッコリーの各作型で生産コスト40%削減)、加工技術の高度化(非冷凍調理品と同等食感の実現、栄養成分の向上)に向けて取り組んでいることが報告されました。

ウ ロボットで切り拓く農業の未来

【報告者】東京大学大学院情報理工学系研究科 深尾教授

AI・ロボットによる収穫作業自動化などの新技術や、これらの社会実装を進める上での課題(コスト、開発・導入スピードなど)について紹介がありました。

エ 隣国中国の加工・業務用野菜に関連したレポート

【報告者】野菜流通カット協議会 木村会長

完全自動化(無人化)されたレタス栽培(畑60ha)や、中国初の高品質農産物実証基地である野菜生産加工企業の取組などについて紹介がありました。

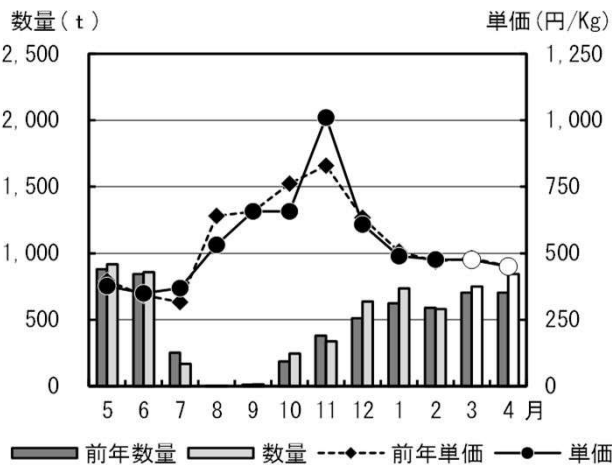
東京都中央卸売市場における4月の主要な愛知産青果物の動向

1 4月の見通し

品目名 トマト

区分 実績等		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績	2021年	7,346	335	熊本	31%	
	2022年	6,808	370	栃木	27%	
	2023年	5,829	408	愛知	12%	
	2024年	6,052	433			
	2025年	5,841	399			
5カ年平均		6,375	389			
2026年見通し		5,800	400			

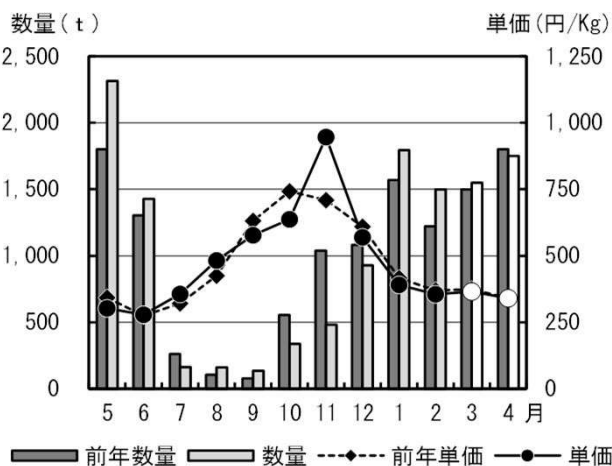
愛知産の動き



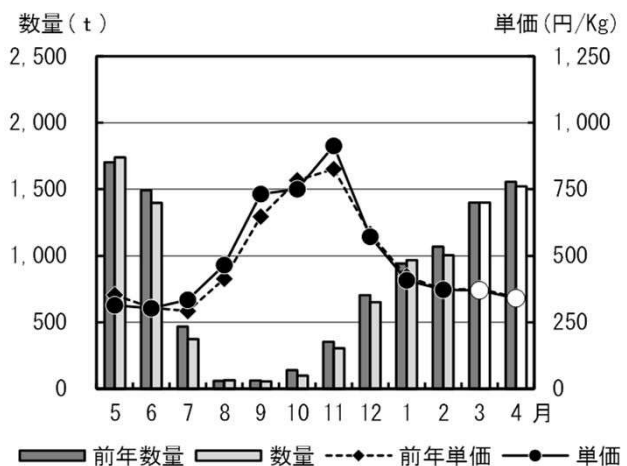
産地概況

本県は、生育に大きな問題はなく、入荷量は前年を大幅に上回ると見込まれる。
 熊本は、気温上昇とともに入荷量は増加するものの、作付面積の減少により前年をわずかに下回ると見込まれる。栃木は、生育順調で玉肥大は良いものの、作付面積の減少により入荷量は前年をわずかに下回ると見込まれる。

競合産地の動き（熊本）



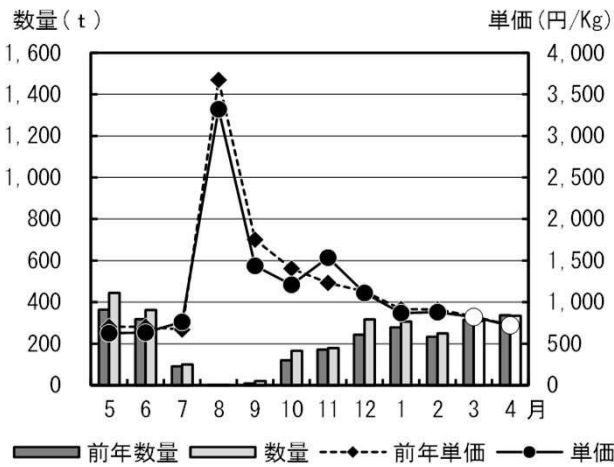
競合産地の動き（栃木）



品目名 ミニトマト

実績等		区分	入荷量	卸売価格	前年上位3産地(%)	市場からの提言等
実績	2021年		2,365	514	熊本 46%	今年は雨が少ない状況が続いており、年間雨量を考えればどこかで大雨が降る心配がある。他産地の入荷量が少ない時期は愛知産を有利販売できる機会となるので、品質維持は言うまでもなく、なるべく正確な出荷情報をお願いしたい。
	2022年		2,278	579	愛知 17%	
	2023年		2,095	625	宮崎 11%	
	2024年		2,060	685		
	2025年		2,036	580		
5ヵ年平均			2,167	597		
2026年見通し			2,070	580		

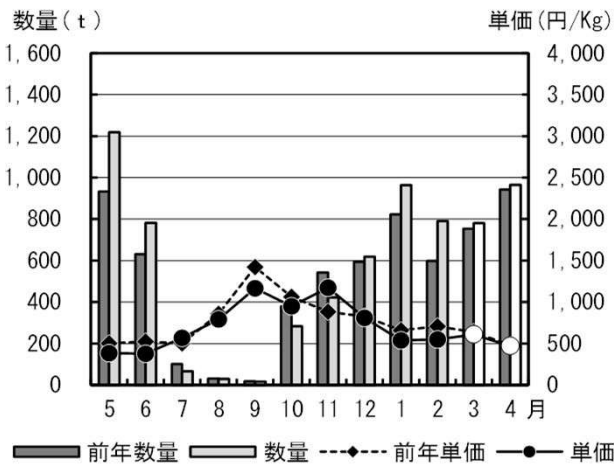
愛知産の動き



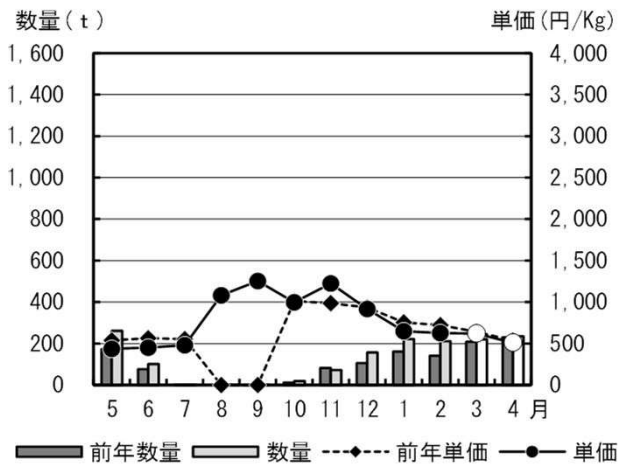
産地概況

本県は、気温の上昇により生育と着果は順調となっており、安定した出回りが予想されるため、入荷量は前年並になると見込まれる。
 熊本及び宮崎は、気温の上昇により生育は順調となっており、順調な入荷が見込まれ、数量は前年をわずかに上回ると見込まれる。

競合産地の動き（熊本）



競合産地の動き（宮崎）



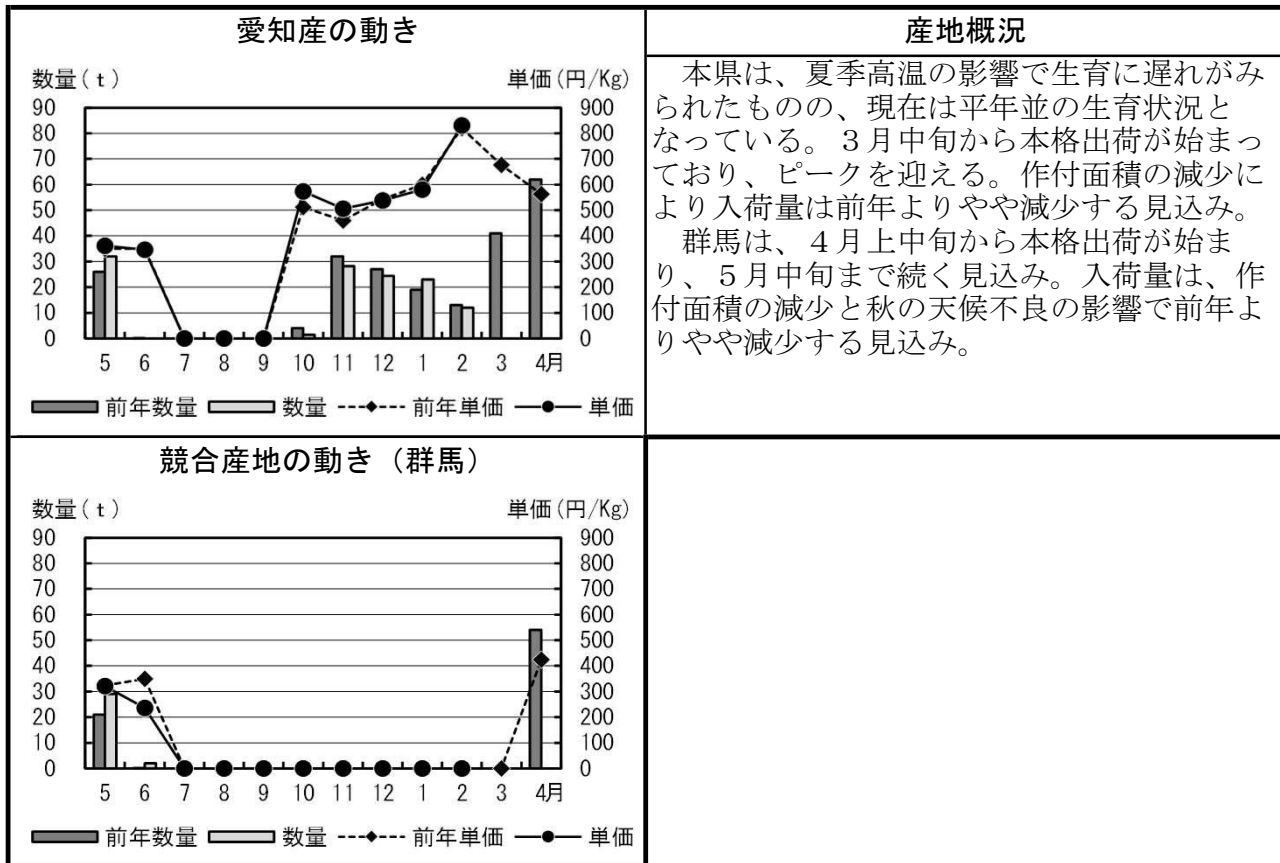
2 入荷量・価格の動き

品目名 ふき

前年上位の産地 (%)

愛知 52%

群馬 45%



切花（愛知名港花き地方卸売市場 3月現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2021年	1,261	33	
		2022年	1,066	59	
		2023年	956	56	
		2024年	1,084	44	
		2025年	1,041	48	
	5カ年平均		1,082	48	
	2026年見通し		1,050	46	
概要	愛知、沖縄からの入荷。上旬は入荷量少なめ、中旬頃からは年末の返しも始まり、数量も伸びてくる。葬儀需要の動きで価格は変動しそう。				
小 ぎ	実績	2021年	924	23	
		2022年	856	34	
		2023年	800	30	
		2024年	622	32	
		2025年	611	30	
	5カ年平均		763	30	
	2026年見通し		610	30	
概要	沖縄中心の入荷。作付は昨年並み。一般需要も落ち着く時期なので、販売は苦戦しそう。下旬からはGW母の日参りの需要に期待。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2021年	1,166	54	
		2022年	1,272	62	
		2023年	1,056	51	
		2024年	1,077	46	
		2025年	1,268	40	
	5カ年平均		1,168	51	
	2026年見通し		1,150	45	
概要	愛知中心の入荷。輸入も例年と比べると7割ほどの入荷見込み。中旬以降後半は母の日に向けての動きが始まる。				
か す み	実績	2021年	202	69	
		2022年	215	85	
		2023年	152	91	
		2024年	182	70	
		2025年	162	68	
	5カ年平均		183	77	
	2026年見通し		170	68	
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷。気温の上昇に伴い、数量は増えていきそう。大きな需要はないため、弱含みの相場展開が予想される。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2021年	258	160	
		2022年	230	173	
		2023年	226	173	
		2024年	213	190	
		2025年	201	163	
	5カ年平均	226	172		
2026年見通し	226	171			
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉から入荷。中旬は年末の返しとなる分が、出荷となり、数量が多くなる見込み。鉄砲は生産減少により相場の大きな崩れはないと予想される。</p>				
洋らん	実績	2021年	272	97	
		2022年	257	141	
		2023年	229	105	
		2024年	256	118	
		2025年	237	108	
	5カ年平均	250	114		
2026年見通し	240	110			
概要	<p>愛知、徳島、静岡、鹿児島等の国産品に加え、輸入品が入荷する。オンシジウムは上位等級中心の入荷となり、下位等級が減少する。デンファレはソニア中心でアンナは徐々に減っていく。シンピジウムは国産品が入荷するが、終盤となり単価次第。コチョウランは輸入、国産共に徐々に増加。カトレアは昨年と比べ、前進気味で入荷量が極端な増加はない見込み。</p>				
ばら	実績	2021年	630	80	
		2022年	740	82	
		2023年	694	71	
		2024年	692	74	
		2025年	638	74	
	5カ年平均	679	76		
2026年見通し	640	75			
概要	<p>愛知、岐阜、三重、長野から入荷。輸入もシーズンオフとなり、入荷は落ち着き、前年並みの入荷予定。</p>				
枝も	実績	2021年	1,215	59	
		2022年	1,262	65	
		2023年	1,045	61	
		2024年	1,090	65	
		2025年	1,034	62	
	5カ年平均	1,129	62		
2026年見通し	1,050	62			
概要	<p>ドウダンの出荷も始まり、初夏の花材がスタートする。姫リョウブ、スノーボール、銀芽、ベビーハンズ他新緑の枝物が次々と入荷する。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
鉢カ	実績	2021年	22,158	704	
		2022年	23,520	755	
		2023年	15,723	694	
		2024年	19,997	693	
		2025年	17,480	717	
	5カ年平均		19,776	714	
	2026年見通し		18,600	725	
概要	<p>中旬以降5号鉢中心に徐々に入荷が増え、下旬より出荷のピークとなる。また近年3.5号～4号の小鉢の需要も増えつつあり、小鉢の入荷は前年より増加する見込み。花立ちや、発色の良いピンク・キイロ系での人気が高く、連休前の4月下旬が最も引き合いが強くなる見込み。</p>				
鉢ファノシ	実績	2021年	43,621	3,026	
		2022年	41,940	2,952	
		2023年	29,682	3,792	
		2024年	32,110	3,559	
		2025年	25,678	3,388	
	5カ年平均		34,606	3,292	
	2026年見通し		25,600	3,398	
概要	<p>入荷量は大輪及びミディーも前年並か。大輪は年度替わりの生産量を増やしており、中下旬は少なくなる。ミディーは母の日向けの下旬より増える見込み。</p>				
鉢バラ	実績	2021年	83,332	259	
		2022年	83,039	246	
		2023年	60,849	222	
		2024年	66,057	257	
		2025年	59,639	231	
	5カ年平均		70,583	244	
	2026年見通し		59,000	229	
概要	<p>生産流通コストの上昇で作付け減の傾向がより強くなっている。4月からは小鉢主体に順調に入荷すると思われる、中値安定相場と予想される。後半にかけては入荷量増加とともに価格は下がる見込み。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイドランジア	実績	2021年	258,728	939	
		2022年	260,067	908	
		2023年	148,119	829	
		2024年	196,322	962	
		2025年	176,044	1,030	
	5カ年平均		207,856	935	
	2026年見通し		176,000	1,028	
概要	<p>入荷量は前年並か。5号サイズの入荷が中心になるが、4号の生産増や今年品種物が多くなり、ボトム5号が少ない見込み。比較的順調な出荷での見込みだが、品種によっては1月での低温で花芽がとんでしまい、良品出荷が出来ないものも見受けられる。</p>				
スパティーフ	実績	2021年	17,552	447	
		2022年	17,007	491	
		2023年	12,884	511	
		2024年	13,709	481	
		2025年	7,002	607	
	5カ年平均		13,631	493	
	2026年見通し		6,300	650	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。燃料費高騰の影響から生産環境が厳しくなっている。3、5号規格生産の減少、後半の需要期に対する注文に見合う品質・商品確保などから、平均単価は上昇が見込まれる。</p>				
カーネーション	実績	2021年	144,080	437	
		2022年	167,518	496	
		2023年	53,711	440	
		2024年	102,545	405	
		2025年	86,933	428	
	5カ年平均		110,957	448	
	2026年見通し		85,000	435	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。各生産者の生産量が減少している。注文主体の為、競売の引き合いは前年に続き、弱含みでの見込み。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.632
2026年4月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434